

1 授業実践について

(1) 学年・単元名

第 (4) 学年 単元名 「 ものの温度と体積 」

(2) 単元学習計画案

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	・温度を変えた時の空気の性質や体積の変化を調べよう。	4時間
さぐる	・温度を変えた時の水の体積の変化を調べよう。 ・温度を変えた時の金属の体積の変化を調べよう。	1時間 (本時) 1時間
いかす	・学んだことを生かそう。	1時間

(3) 想定される展開

想定される学習活動や児童の様子	想定される指導
<p>○事象提示を見て、疑問を共有する。</p>  <p>ペットボトルを氷水からお湯に入れたら形が戻った。</p> <p>○疑問から学習問題を立てる。</p> <p>水の体積は、水の温度が変わるとどうなるだろうか。</p> <p>○予想を立てる。</p>  <p>空気と同じように温まると体積は大きくなって、冷えると小さくなると思う。</p>	<p>○水の入ったペットボトルをA氷水Bお湯の中に入れて、ペットボトルがへこんだり、膨らんだりすることに気付かせる。</p> <p>○温度変化と体積変化に注目させ、児童の疑問から学習問題を立てさせる。</p> <p>○事象提示を振り返らせたり、既習内容や生活経験を基に考えさせたりして予想させる。</p>

2 全体を通しての所感

予想を立てさせる時に、前時までの学習や自分の生活経験を想起させることに重点を置き、指導している。半数の児童が学習内容や生活経験を基に予想や仮説を立てることができるようになってきている。考察を充実させることに課題を感じている児童がいるため、結果からわかることを学習問題と照らし合わせて、自分の考えを表せるようにしていきたい。その力が身につくと、学習内容も定着し、根拠のある予想や仮説を発想する力も付くと考えられる。